

# “親なき後”の暮らしに関する事業所ヒアリング

## 1 概要

### (1) 目的

親なき後等の問題検討会において当事者及び家族を対象としたアンケートを行い、当事者が抱える“親なき後”の暮らしの課題を整理しましたが、家族と共に障害者を支援している事業者の視点から感じている課題を把握するため、事業所ヒアリングを実施しました。

### (2) 対象・事業種別

「寝屋川市障害児者福祉施設協議会」及び「寝屋川市自立支援協議会」に所属する事業所のうち、ヒアリングに同意した事業所

■事業種別：施設入所支援、短期入所、生活介護、就労継続支援B型、相談支援（委託含）、共同生活援助

### (3) 調査方法

ヒアリングシートを事前配布した上で、9月25日から10月31日の期間に事業所ごとに実施

## 2 ヒアリング結果

### ○ 事業所から見た現状と課題

#### 利用者、家族の現状

- 計画相談などの支援がある場合も、自ら困りごとを発信できない方がいる。
- 特定のサービスの利用だけでは課題解決が困難なため、複数のサービスを組み合わせる必要があることを当事者や家族と共有する必要がある。
- 障害特性等により受入可能な事業所が限られるケースや特定のサービスだけを希望するケースがあり、事業所と利用者の双方が複数の選択肢を早い段階から準備していくことが重要である。

#### 支援側の課題

- 親が元気なときから、“親なき後”の生活を具体的にイメージできるよう、支援する必要がある。
- 事業所としても“親なき後”に向けて考えていただくための情報発信に取り組みたい。
- 事業所等の関係構築に消極的な家族への支援を課題と考えている。
- キーパーソンが亡くなった後、新たに家族と関係を構築していくことに難しさがある。

#### その他の課題

- 休日・夜間にも相談、対応できる体制の構築が必要である。
- 地域で生活していくには、地域住民の理解が大切であると感じている。
- 成年後見制度を利用する際に報酬がネックになるケースがある。
- 事業所者や支援者に加えて高齢サービスを含め地域全体で連携できる仕組みの充実が必要である。

### ○ 事業所の実際取組と課題や工夫

#### 事業所から本人、家族への支援

- 本人がサービスの内容を理解し、見通しが持てるよう視覚的に情報を把握できるよう提示している。
- 本人・家族からの相談をタイムリーに受け止めることで、信頼関係構築に努めている。
- 防災の観点から単身生活者の名簿を作成しているが、8050の視点でも準備が必要と感じている。
- 早い段階からショートステイの利用を促すなど、「備え」を呼び掛けている。
- 御家族向けに“親なき後”の勉強会を実施した。
- 一人暮らしを経験できる施設を運営している。

#### 事業所に関すること

- 職員が共通認識を持って支援ができるようケース会議等で情報共有を図っている。
- サービスの範囲外の支援が必要な場面がある。

### ○ その他

#### その他意見

- sosを出すことに躊躇しないで欲しい。
- 家族と共に『本人主体』の生活を考える事が大事である。
- 今回のアンケートによって、“親なき後”のことを一緒に考える良い機会になった。